

IB教育を通して実現する自己の将来像と Well-being

カメダ クインシー

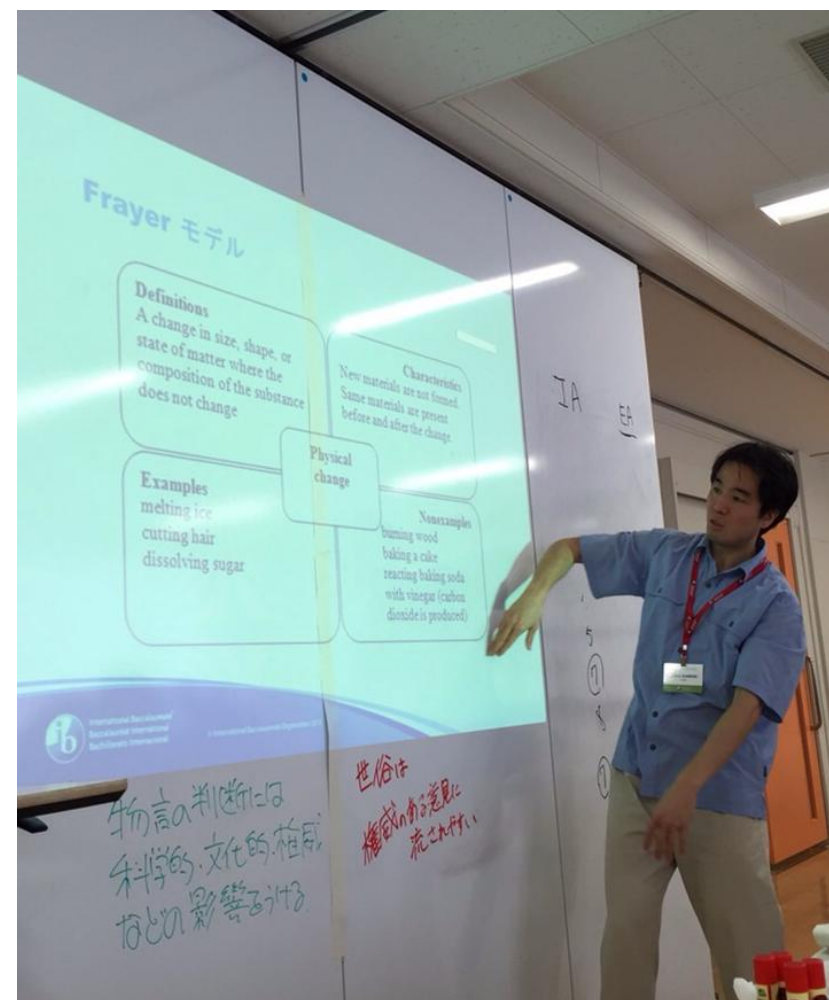
IB CERTIFICATE
IN TEACHING AND LEARNING



Tamagawa University
Graduate School of Education

自己紹介：カメダ クインシー

- 2003年トロント大学 理学部 天体物理学学科卒業、2014年トロント大学・オンタリオ教育研究所 修士課程教員養成カリキュラム開発研究科修了
- 2008年～2014年は玉川学園にて、MYP理科・数学、DP物理・数学・TOKを担当、IBDPコーディネーター。
- 2010年よりIB Bilingual Workshop Leader, DP物理 Examiner, 2013年よりIB School Visiting Team Leader, IB Consultant、IB Field Representative, IBEN WSL & SVTM Trainer, 2020年よりIB Curriculum Developer, IB Programme Leader, IB Lead Educator, 2024年よりIB Learning Hub Facilitatorを兼務。
- 2015年～2017年は国際バカロレア機構日本教育専門官を兼務。2021～2022はSenior IB Lead EducatorとしてIB機構との共同研究:PSP2020言語学習支援プロジェクトの運営を担当。
- 2014年9月より玉川大学大学院教育学研究科の准教授としてIB教員養成プログラムを担当。



IB教育は「理想に近づいていく」ものである

導入したからといってすぐに理想的な教育が実現するわけではない。



IB教育は「理想に近づいていく」ものである

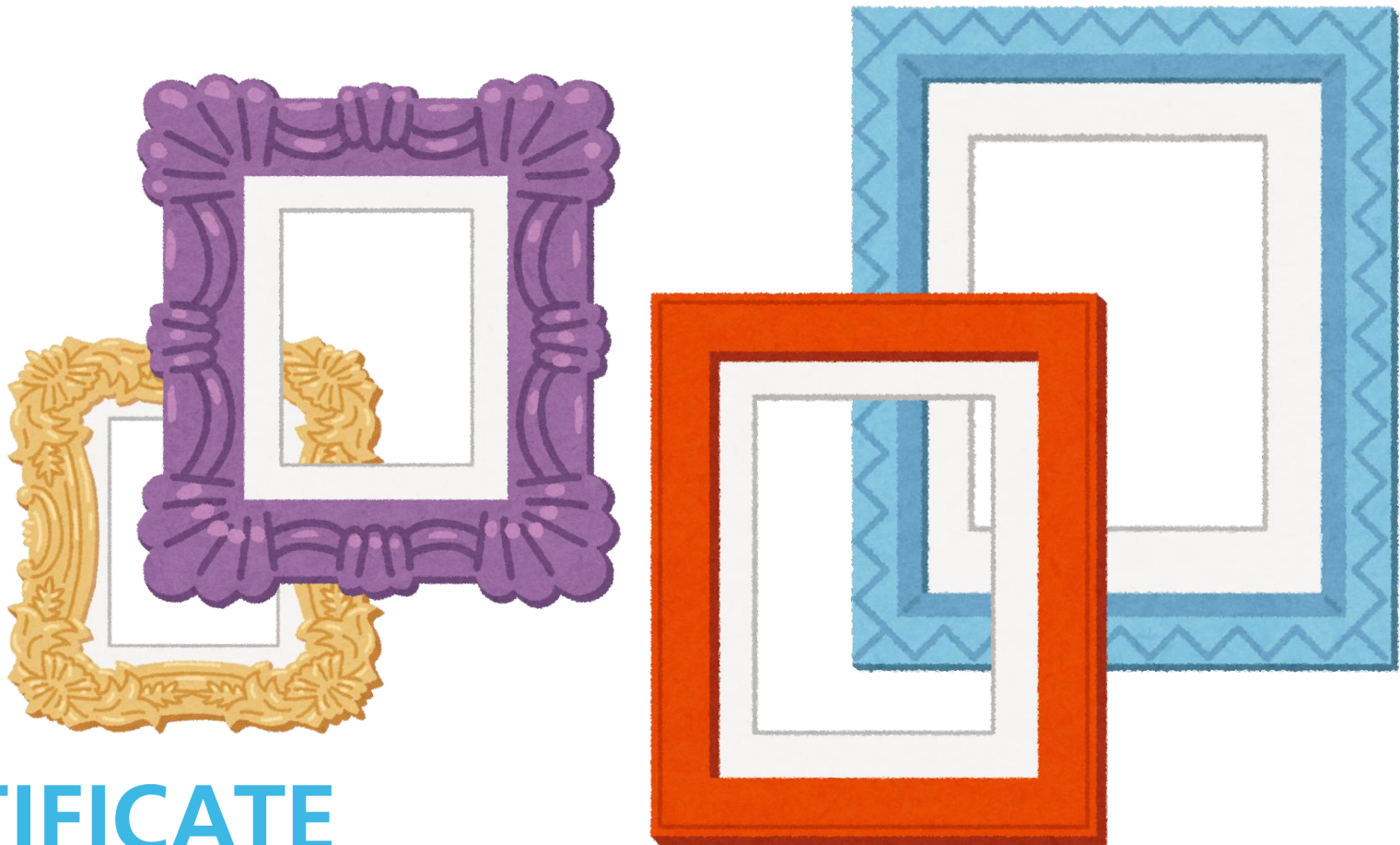
- 生徒が主体的に学ぶようになる
- 教員が探究型の授業を展開できるようになる
- 学校全体が協働的な学びの文化に変わっていく



IBは「フレームワーク」である

IBは「カリキュラム」ではありません。

正確には、「カリキュラムフレームワーク (curriculum framework)」です。

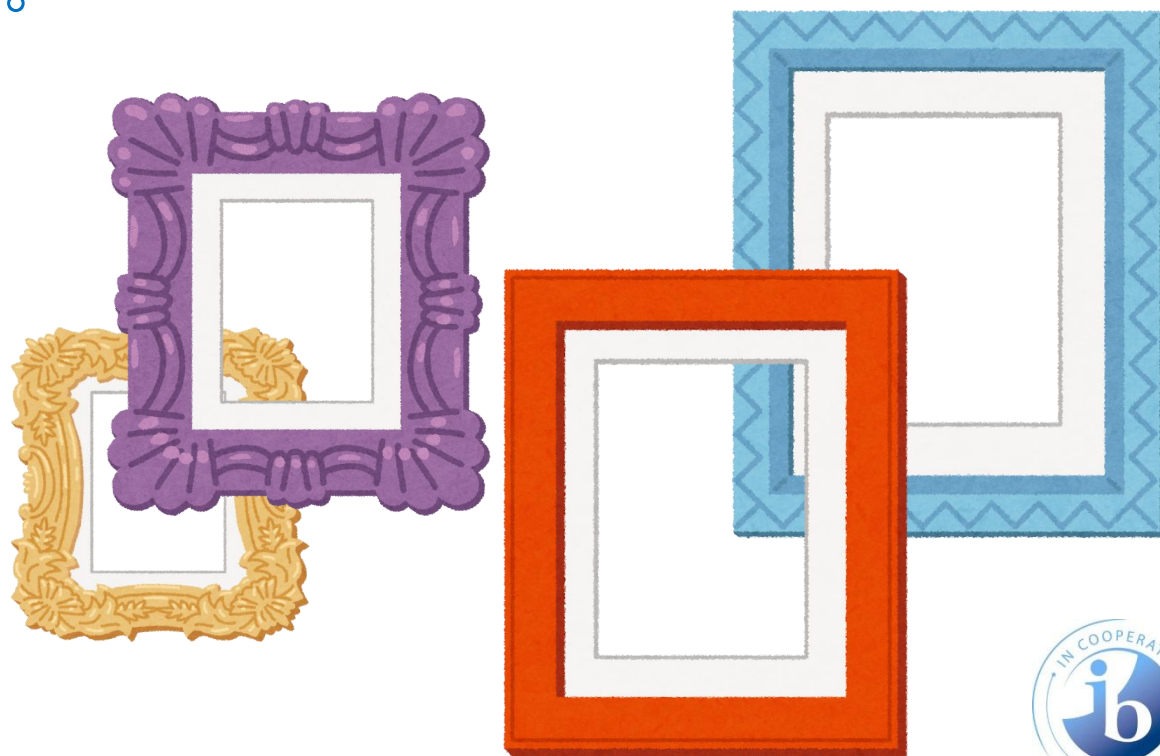


IBは「フレームワーク」である

教師は常に学び合い、試行錯誤し続ける必要がある

学校はIBの理念を自校の文脈に翻訳しながら実践する責任がある

だからこそ、IB校で働く教員は、研修や協働を通じて、教育を進化させていく「学習者」でもあるのです。



結果だけでなく「プロセス」を大切に

知識よりも「どうやって学んだか」

正解よりも「どんな問いを立てたか」

個人の成果よりも「他者とうどう協働したか」



結果だけでなく「プロセス」を大切に

問い:

「失敗とは、成功の反対なのか？ それとも、成功の一部なのか？」

この問いに対して、今すぐ“正しい答え”を書く必要はありません。むしろ大切なのは、この問いを見て浮かんだ考えや感じたことを、自由に書き出すことです。

迷ったり、矛盾していたり、まとまっていなくても大丈夫。あなたの頭の中で動き始めた思考そのものに価値があります。ぜひ、思いつくまま、言葉を手繰るように書いてみてください。

答えのない問い

ステップ①：書く

問い：

「失敗とは、成功の反対なのか？ それとも、成功の一部なのか？」

「今から3分間、紙に次のことを自由に書いてください。」

- 最初にこの問いを見て、あなたはどう感じましたか？
- 賛成か反対か、あなたの最初の直感はどちらでしたか？
- その考えはどんな理由からきていますか？
- 他の視点もあるとしたら、どんなものがありますか？

答えのない問い

ステップ②：隣の人と共有

問い:

「失敗とは、成功の反対なのか？ それとも、成功の一部なのか？」

「今書いた“考える過程”を、隣の方と1分間ずつ交互に共有してみてください。」

- 正解は必要ありません。
- 相手の考えに「なるほど」と思うことがあれば、それも一つの学びです。

(※移動が難しい場合は「心の中で“誰かに説明するように”考えてみてください」でもOK)

結果だけでなく「プロセス」を大切に

今の問いに“正解”はありません。でも、今あなたがしていたことは何だったのでしょうか？

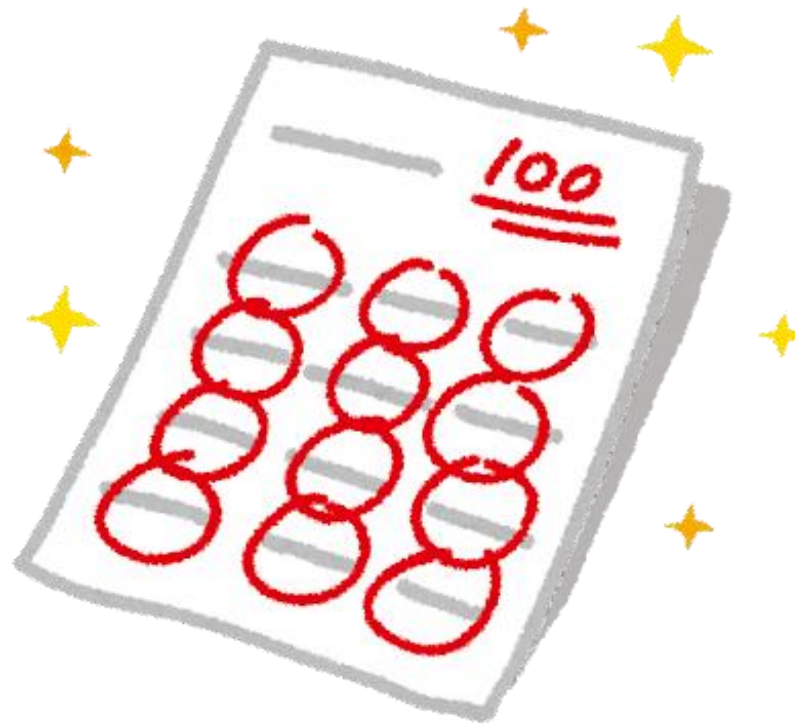
- 視点を増やす
- 自分の直感を言語化する
- 他者の考えと自分の違いを受け止める
- 矛盾を保留しながら考え続ける



まさにこれが、IBで育てたい“考える力 (thinking skills)”であり、“本質的な学びのプロセス”です。

結果だけでなく「プロセス」を大切に

学校という場所は、世界で唯一「正解が用意された問い」が与えられる場所かもしれません。



でも——学校の外の世界、つまり社会に出ると、どうでしょうか？

結果だけでなく「プロセス」を大切に

- 医師は、「どの治療法が最善か」を患者ごとに悩めます。
- 経営者は、「正しい判断」が見えないまま決断を迫られます。
- 教育者もまた、「何が子どもにとって本当の意味での成長なのか」に、明確な答えなど持ち合わせていません。

現実の社会は、常に“答えのない問い”であふれているのです。



結果だけでなく「プロセス」を大切に

だからこそ、今、私たち教育に関わる者に必要なのは、
「正解に早くたどり着く力」ではなく、
「答えが見えない状況でも考え続ける力」や「問い続ける力」を育て
ることではないでしょうか。



なぜIBはプロセスを大切にするのでしょうか？

それは、IBがただ「学力」を育てたいのではなく、“健やかに生きる力（well-being）”を育てようとしているからです。



IBが考えるウェルビーイングとは

- IBでは、近年「ウェルビーイング (Well-being)」を教育の中心に据えた取り組みが進められています。
- ウェルビーイングとは、「安心して本来の自分として学び、生きることができる状態」を指します。



なぜウェルビーイングが重要なのか

IBが目指すのは、成績や点数に縛られた競争の学びではありません。

むしろ、「誰一人取り残さず、共に学び合うコミュニティ」を育てることです。

そこでは、子どもたちが互いを認め合い、違いを尊重し、支え合いながら成長していきます。



学びの土台としての「**Belonging**（帰属意識）」

現代社会は不確実性に満ちています。進路や将来に不安を感じる子どもたちにとって、学校が「自分の居場所」だと感じられること、すなわち、自分でいながら「ここにいて良い」と実感できることが、健やかな成長の鍵となります。



学びの土台としての「**Belonging**（帰属意識）」

- 「Belonging」とは、学校コミュニティの一員として「ここにいて良い」と感じられる帰属意識や一体感のことです。多様な学習者が活躍できる環境づくりにおいて、重要な概念として注目されています。
- 帰属意識は、子どもたちのエージェンシーを育むコミュニティ作りのための基盤です。
- 「自分はこのクラス、この学校、このコミュニティの一員である」という実感があってはじめて、子どもたちは安心して自ら考え、行動し、学びに挑戦することができます。



学習する組織（学び合うコミュニティ）



保護者もIB教育の「協力者」である

IB教育は、学校だけでは成り立ちません。生徒を支える最大の存在である保護者の皆さんが、IBコミュニティの一員であることが何より大切です。そのために、保護者の皆さまにお願いしたいのは：

- 学校の教育方針を理解しようとする姿勢
- 家庭でも「問いを大切にする会話」や「失敗を許す雰囲気」を育むこと
- 学校行事やワークショップなどに積極的に関わること
- これらを通して、「子どもの学びのパートナー」としての関係性が築かれます。



- * 終わりが見えず、ただ時間だけが過ぎていく教員会議。
- * 何を伝えても届かず、向き合っているはずなのにすれ違う保護者会。
- * 正解を探そうとする無言の空気に包まれ、息を潜めるように座る子どもたち。

そこにあるのは、抜け道の見えない“閉塞感”。
どこへ向かえばいいのかもわからず、
「この感覚はいつまで続くのか」とさえ思ってしまう——

それは、教師だけでなく、保護者も、そして子どもたちも同じです。



「人は本来、身体を通して解放される
生き物である。」

(ガボール・マテ)



Jailhouse Rock

ということで！

ここで皆さんと一緒に、踊ります。

エルヴィス・プレスリーの名曲、
『Jailhouse Rock』。

その名の通り、「監獄でロックンロール」。

まるで、閉ざされた空間の中から自分を解放するような曲です。



IBは「共につくる」教育

IB教育は、完成された正解ではありません。絶え間ない問いと対話と協働によって、私たちが共に創っていく教育です。

- 理想に近づこうとする姿勢
- 結果だけでなくプロセスを認めるまなざし
- 教師・生徒・保護者が学び合う文化



「何を学ぶか」よりも「どう学ぶか」

- IB教育は「大学受験」を超えた価値を持つ
- 主体的な学び・探究・国際的視野を重視
- 生涯学習者として未来を切り開く力を育む



ご清聴ありがとうございます。
ございました。

What makes us special is
when you combine the ideas
behind the words

International and Baccalaureate

Forty years ago, a group of talented
teachers from international schools
around the world did just that...

